

<第 1 回食品ロス削減推進計画部会の意見及び対応>

- 1 将来目標について**
- 2 目標達成に向けた基本的施策の推進について**
 - (1) 削減状況を踏まえた施策の方向性**
 - (2) 事業者・消費者への取組**

1 将来目標について

I 食品ロス量の削減目標（見直し）

- ◎ 国の第2次基本方針における削減目標、及び府の事業系食品ロスの削減状況を踏まえ、府の削減目標を見直し、**事業系60%減**、家庭系50%減をめざす。

II 食品ロス削減に取り組む府民の割合について（継続）

- ◎ 国方針より高い水準である現行の目標を維持し、目標達成に向けて、取り組んでいく。食品ロス削減のための複数（2項目以上）の取組を行う府民の割合を90%とします。

I 食品ロス量の削減目標については、府の削減目標を見直し、**事業系60%減**、家庭系50%減を目指すことで、各委員が了承。

II 食品ロス削減に取り組む府民の割合については、食品ロス削減のための複数（2項目以上）の取組を行う府民の割合を90%という目標を継続することで、各委員が了承。

2 (1) 削減状況を踏まえた施策の方向性

- ◎ 計画の基本的構成は維持しつつ、2030年度の目標達成に向け、取組を加速させるための具体的な内容を計画に盛り込んでいく。
- ◎ 府として、重点的に取り組む施策を具体化・体系化する。施策の柱として、事業系・家庭系双方の食品ロス削減にアプローチするため、「売れ残り、食べ残し等の発生抑制」及び「未利用食品の有効活用」という柱を掲げて、取り組んでいく。

委員意見

- ✓ 取組を加速させるための具体的な内容として、「行動変容」を強く打ち出してはどうか。
- ✓ 施策を体系化して、特に「未利用食品の有効活用」を柱として掲げている点が分かりやすい。
- ✓ 大阪府民に楽しく、かつ、刺さるような言葉があると良い。

事務局対応

- ⇒ 施策体系については、「削減する食品ロス（発生抑制）」だけではなく、「**どのような行動変容を促進していくのか**」といった観点を盛り込み、再整理する。→ **施策体系を再整理（資料2）**
- ⇒ 現在のスローガンである「“もったいないやん！” 食の都大阪でおいしく食べきろう」についても、**大阪らしい言葉やスタイルで、「行動変容」を促進させるため、サブタイトルを追加する。**

2 (2) 事業者・消費者への取組

委員意見

- ✓ 単に、消費者向けの啓発を行うというだけではなく、「行動変容」を促すために何を伝えるか、啓発で、どのような「行動変容」に繋がってほしいのかを記載できると良い。
- ✓ 事業者・消費者は連携した取組が多いため、「多様な方々と一緒に取組を進めていく」といった視点を示してはどうか。
- ✓ アップサイクルといえば、衣料品などで「捨てるものを作り替える」のが一般的であり、食品のアップサイクルは、イメージや効果の面で、計画に載せるレベルではないと思う。
- ✓ 「フードドライブ」自体の認知度が非常に低いので、「フードドライブ」の実施場所を周知する前に、まずは、取組そのものを府民に知ってもらうことが大事である。

事務局対応

- ⇒ 取組（特に消費者啓発）では、**行動変容を促進するために伝えることを具体的に盛り込む。**
- ⇒ 各主体が連携して「行動変容」に向けて取り組むことを示すため、**「事業者」・「消費者」といった主体で取組を分類せず、**施策体系の中で、具体的に取り組んでいく内容を記載する。
- ⇒ **「アップサイクル」にかかる記載を削除する。**（農業者・事業者による取組については、計画に記載せず、具体的な取組内容を個別に確認した上で、適宜、必要な支援を行っていく。）
- ⇒ 「フードドライブ」の取組を周知する際に、**「フードドライブ」の意義などを示していく。**